



2018年度

第2四半期決算 補足説明資料

2018年11月8日

パイア株式会社



[1]2018年度第2四半期 業績の概要

[2]2018年度 業績の見通し



1) 決算のポイント

・エンタテインメント事業における“バリューチェーン”の確立を目指した、新たな中期経営計画(3ヶ年)の初年度。エンタテインメント市場、コト消費の活況を背景に、音楽・スポーツ・イベントジャンルを中心にチケット販売が好調に推移し、第2四半期連結売上高としては過去最高を記録。

・連結売上高950億68百万円(対前年同期比110.3%)、営業利益8億51百万円(同126.2%)、経常利益8億15百万円(同119.8%)、四半期純利益5億46百万円(同123.4%)の、増収・増益にて着地。

・「B'z」「松任谷由実」「シルク・ドゥ・ソレイユ・キュリオス」「ap bank fes'18」「Mr.Children」「ポール・マッカートニー」等の大型興行が相次いだこと、『夏ぴあ』『秋ぴあ』『パンダと犬』等の出版企画商品の販売が好調であったこと、「神宮外苑花火大会」や「METROCK」等の主催興行が活況であったことが要因。

・横浜に建設中の「ぴあアリーナ・みなとみらい」(1万人収容)、2019年ラグビーW杯観戦チケットの販売受託、新メディア「ぴあ(アプリ)」テスト版のリリースなど、中期経営計画の必達に向けた準備も着実に進捗。

2) 前期との比較



[単位:百万円]

	前期	2018年度	前期からの増減
売上高	86,225	95,068	+8,842
差引売上総利益	6,415	7,562	+1,146
粗利率	7.4%	8.0%	+0.5%
営業利益	674	851	+176
経常利益	680	815	+134
親会社株主に帰属する 四半期純利益	442	546	+103

3) 連結損益計算書 (要約)



[単位:百万円]

	【前年度】	【2018年度】	【前年比】
売上高	86,225	95,068	+8,842
売上原価	79,809	87,506	+7,695
差引売上総利益	6,415	7,562	+1,146
販管費	5,740	6,710	+970
営業利益	674	851	+176
営業外収益	14	20	+5
営業外費用	9	56	+47
経常利益	680	815	+134
特別利益	8	-	▲8
特別損失	-	-	0
税引き前四半期純利益	689	815	+125
法人税等合計 少数株主利益	245	268	+22
親会社株主に帰属する 四半期純利益	442	546	+103
四半期包括利益	453	562	+109

4) 連結貸借対照表 (要約)



[単位:百万円]

資産の部		
	【前期末】	【2018/9末】
現預金	18,582	25,309
売掛金等	25,287	17,704
商品等	134	115
その他	2,695	3,156
流動資産：前期末比 414減		
流動資産	46,698	46,284
有形固定	1,359	2,564
無形固定	3,911	3,907
投資その他	3,518	3,588
固定資産：前期末比 1,270増		
固定資産	8,789	10,059
資産合計	55,488	56,343

負債の部		
	【前期末】	【2018/9末】
流動負債：前期末比 336増		
流動負債	47,597	47,934
固定負債	561	1,917
負債合計	48,158	49,851
純資産の部		
資本金	4,903	4,903
資本剰余金	1,084	1,084
利益剰余金	3,796	4,160
自己株式	▲2,488	▲3,705
他包括利益	▲43	▲36
少数株主持分	77	86
純資産合計	7,329	6,492
負債・純資産合計	55,488	56,343

5) 連結キャッシュ・フロー計算書 (要約)



[単位:百万円]

	【前年度】	【2018年度】	【前年比】
営業活動による キャッシュ・フロー	5,117	9,214	+4,096
投資活動による キャッシュ・フロー	▲880	▲2,444	▲1,564
財務活動による キャッシュ・フロー	▲1,006	▲43	+963
現預金及び現金同等物の 増減額 (▲は減少)	3,230	6,726	+3,495
現預金及び現金同等物の 期首残高	18,851	18,582	▲268
現預金及び現金同等物の 四半期末残高	22,081	25,309	+3,227

6) 主な取り組み(1/2)



◆主催興行が好調。ぴあならではのバリューチェーンの成立を目指す



PIA MUSIC COMPLEX
-ぴあフェス-



S20 JAPAN SONGKRAN
MUSIC FESTIVAL



©日刊スポーツ新聞社
2018神宮外苑花火大会

<人気書籍『パンダと犬』 のグッズ展開も好調>



▲東京・大阪・福岡でグッズショップを開催



◆「ぴあ(アプリ)」をテストリリース



2011年に「時代の役割を十分に全うした」として休刊していた情報誌『ぴあ』がネットのアプリで復活。11月下旬の本創刊に向け、テスト版をリリース。

6) 主な取り組み(2/2)



◆東京オリンピック・パラリンピックの業務委託事業者の 契約候補者に選定 / ラグビーW杯2019のチケット券売も好調

2020年に開催される東京五輪において、当社は、チケットングシステム&サービスオペレーションを担う業務委託事業者(TSP)の契約候補者に選定。1998年長野冬季五輪以降、夏季・冬季全ての五輪で日本国内分のチケット販売を行ってきた経験を活かす。また、当社がチケットング業務を受託しているラグビーW杯2019日本大会もチケット販売が好調に推移。

◆パナソニック社と共同で「スタ ジアムサービスプラットフォーム」 の実証実験をスタート



▲11/24(土)には、パナソニックスタジアム吹田にて3万人の観客を対象に実証実験を実施

◆横浜みなとみらい地区に建設予定 の音楽アリーナの名称が 「ぴあアリーナ・みなとみらい」に決定



6) 社業を通じた社会的活動



◆「PFF」が 40回目の記念開催

昨年、一般社団法人化したPFFが60を超える企業、業界団体からの協賛をいただき40回目を開催。さらなる継続開催を目指す。



▲第40回PFFの授賞式の模様



◆チームスマイル 「"わたしの夢"応援 プロジェクト」継続中

震災から7年を経た今も、被災地の子どもたちの夢を応援するプロジェクトを継続的に実施。



Vol.16 渡辺貞夫さん(宮城)



Vol.18,19
茂木健一郎さん、
柳家花緑さん
(福島・岩手)



Vol.17 川淵三郎さん(福島)

[2]2018年度 業績の見通し



上期は前回予想(8/9発表)より好調に推移するも、
通期業績予想については据え置き。

[単位:百万円]

【連結PL】	上期			通期	
	【17実績】	【18予想(8/9) (期初予想)	【18実績】	【17実績】	【18予想】
売上高	86,225	90,000 (85,000)	95,068	163,509	165,000
営業利益	674	700 (650)	851	1,225	1,250
経常利益	680	650 (600)	815	1,173	1,200
当期利益※	442	450 (350)	546	706	700
1株あたり配当金	—	—	—	16.00円	17.00円

※親会社株主に帰属する当期純利益です。